

国内外でのDNSSECに関する検討状況

2009年12月11日(金)

株式会社日本レジストリサービス

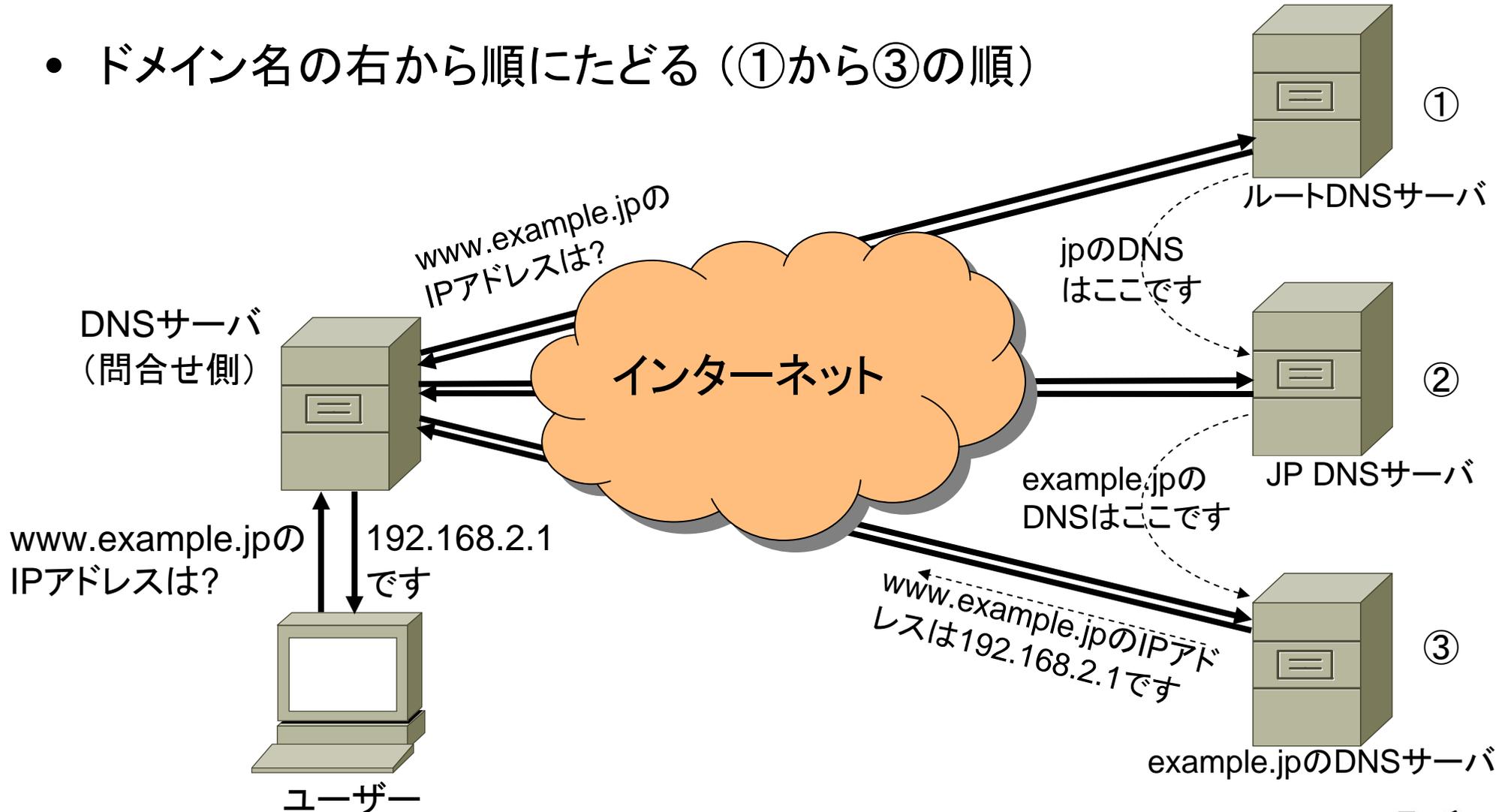
目次

1. DNSSECとは(振り返り)
2. 国外の状況
 - 各TLDにおけるDNSSEC対応状況
 - ルートDNSサーバのDNSSEC対応予定
3. 日本国内の状況
 - JPRSの活動状況
 - DNSSECジャパン(DNSSEC.jp)の設立

1. DNSSECとは(振り返り)

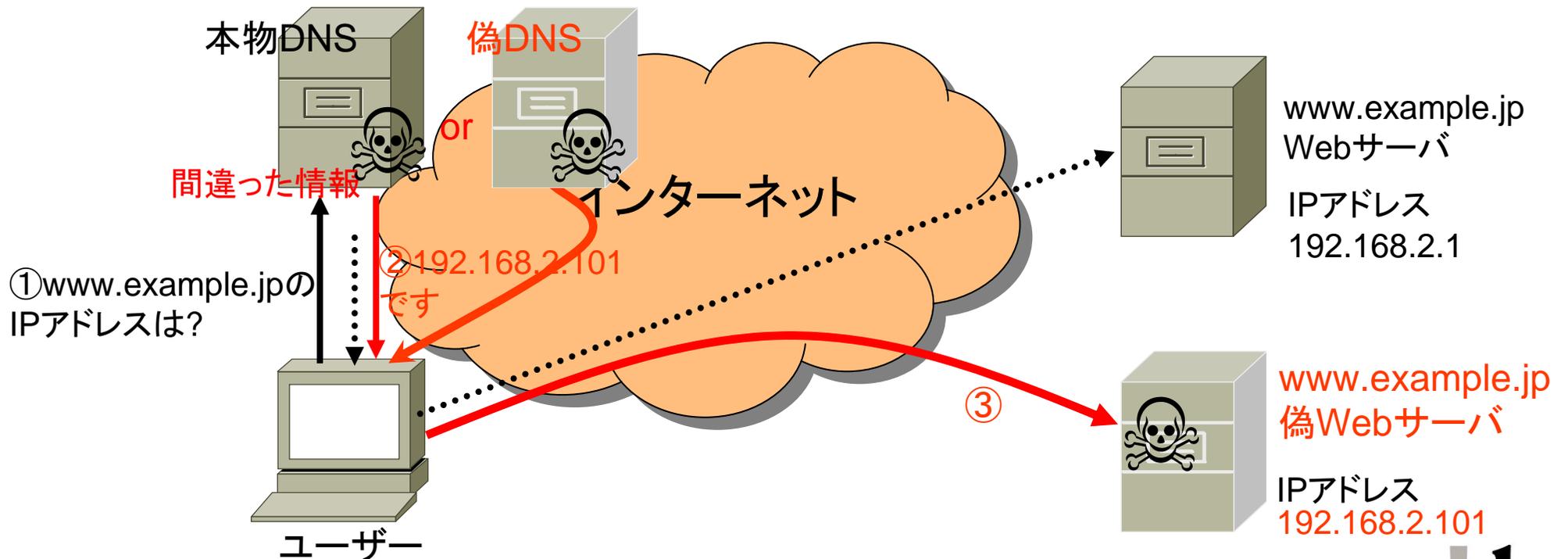
DNSの仕組み

- ドメイン名の右から順にたどる (①から③の順)



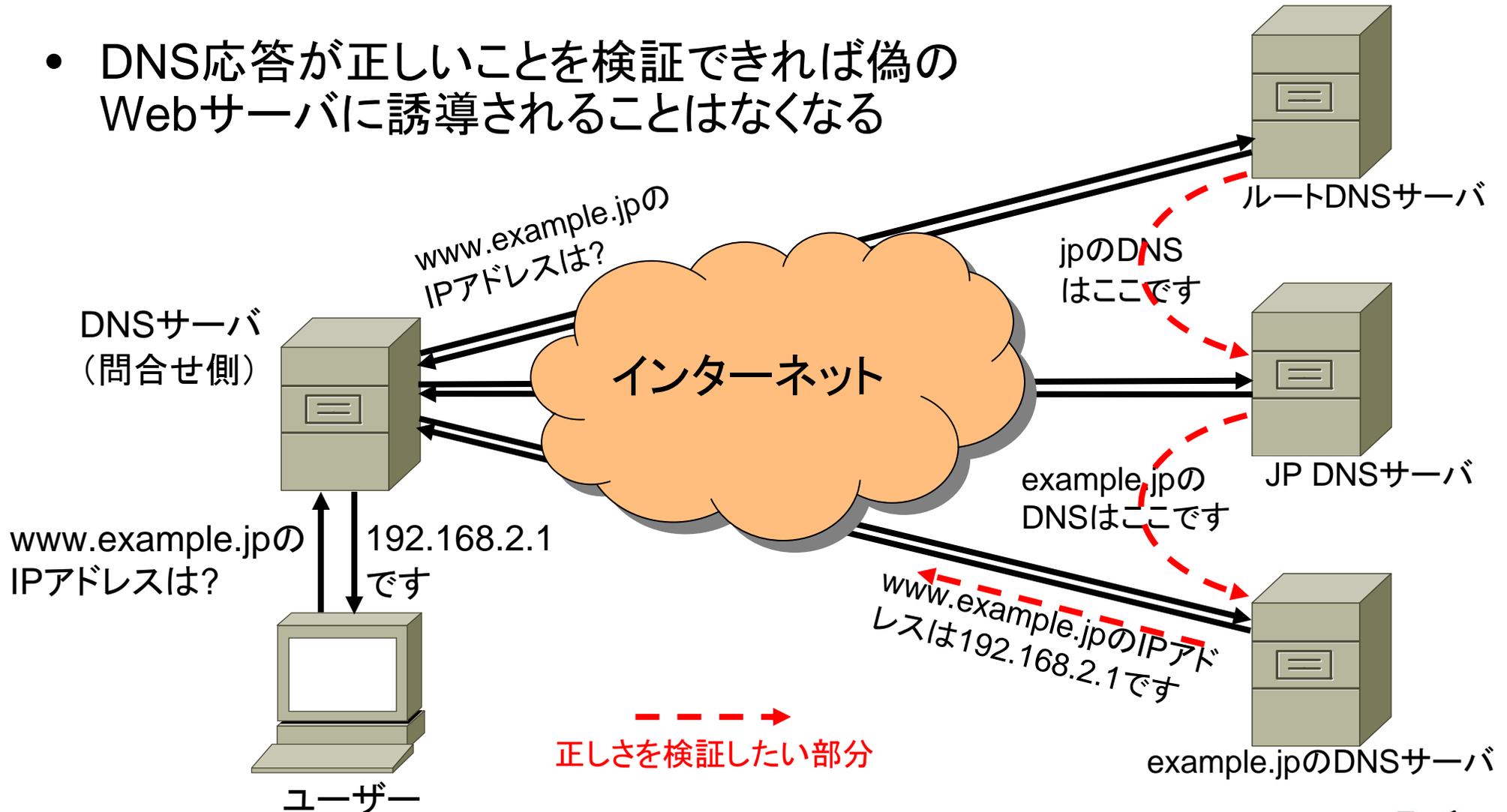
DNSの応答が偽造されたら

- もし本物のDNSが間違った情報を返したら・・・ または、
- 本物のDNSサーバ以外から来た応答を信じてしまったら・・・
 - ユーザーは大混乱
 - 間違ったWebサイトにアクセスしてしまう
 - 間違った相手に電子メールが送られてしまう



DNS応答の正しさの検証

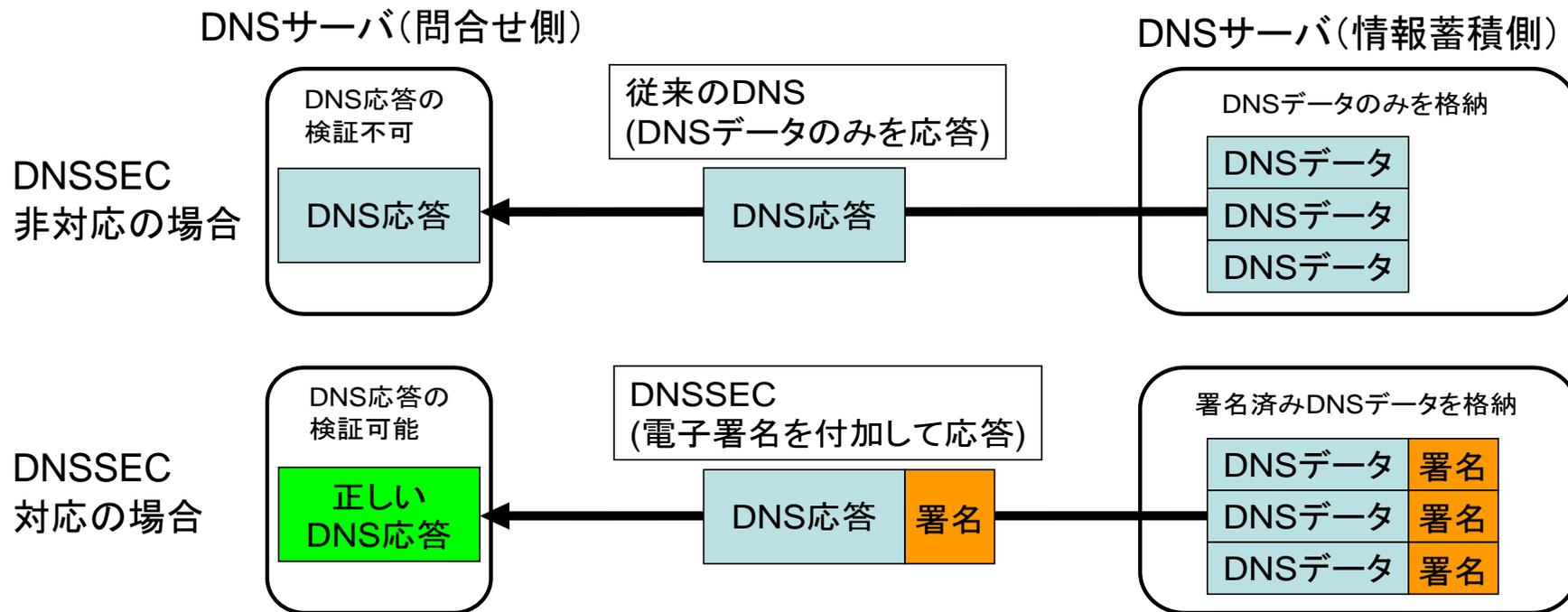
- DNS応答が正しいことを検証できれば偽のWebサーバに誘導されることはなくなる



DNSSECとは

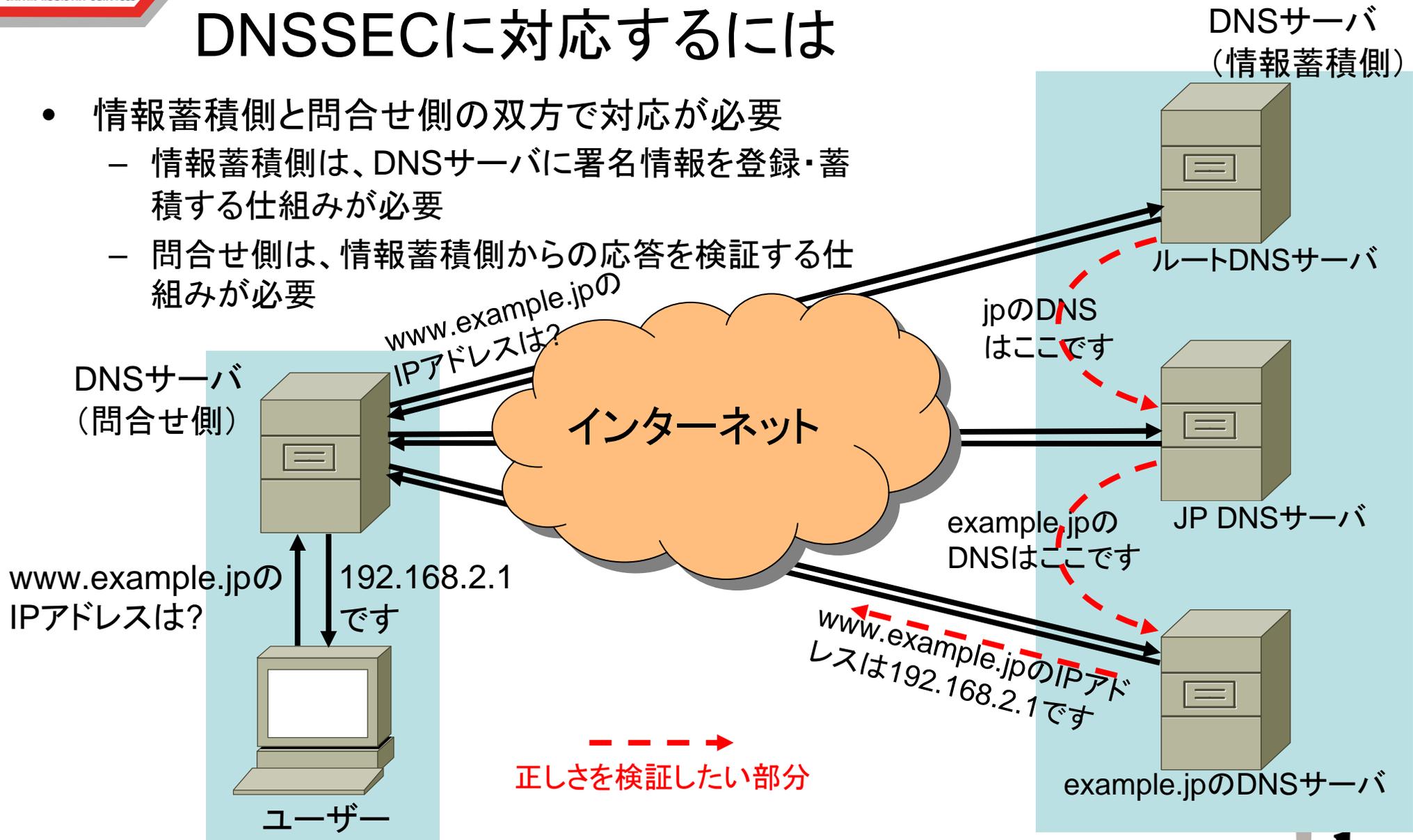
- DNSのセキュリティ機能拡張 (DNS Security Extensions)
- DNSサーバで、応答に公開鍵暗号による署名(*)を付加し、出自を保証
- ユーザー側で、DNS応答を検証(偽造有無を自動的に検出)

(*)電子データに署名者のみが作れる情報を付加する技術。
紙文書での印・サインにあたる。



DNSSECに対応するには

- 情報蓄積側と問合せ側の双方で対応が必要
 - 情報蓄積側は、DNSサーバに署名情報を登録・蓄積する仕組みが必要
 - 問合せ側は、情報蓄積側からの応答を検証する仕組みが必要

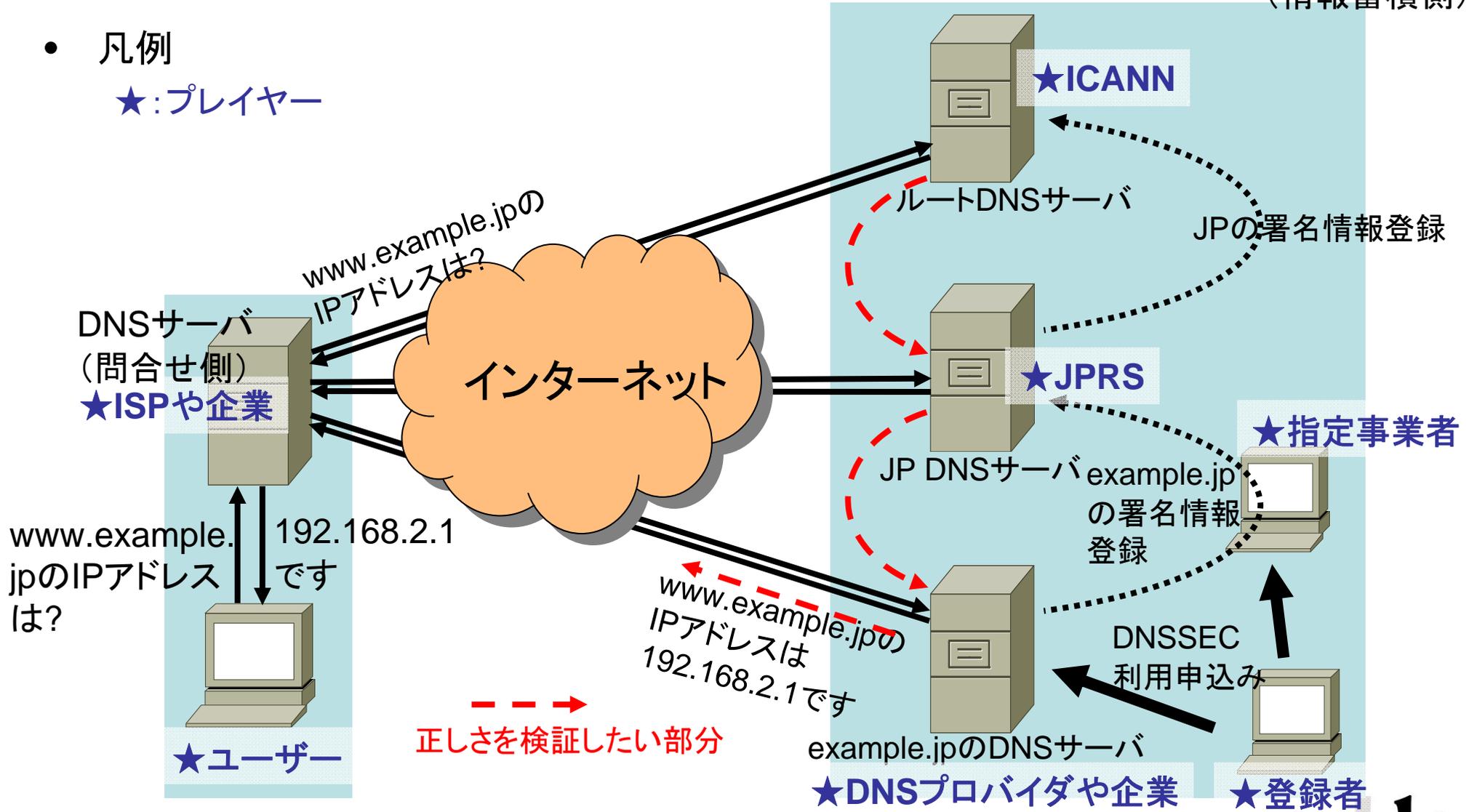


DNSSECに関するプレイヤー

DNSサーバ
(情報蓄積側)

- 凡例

★:プレイヤー



2. 国外の状況

TLDにおけるDNSSEC対応状況(導入済)

状況	種別	TLD名	特記事項
導入済	ccTLD	SE(スウェーデン)	<ul style="list-style-type: none"> ・2005年9月に導入開始、世界で最初にDNSSEC対応したTLD ・2009年1月から料金を無料化 ・これまでに多くのノウハウを外部に発信
		PR(プエルトリコ)	・2006年8月に導入開始
		BG(ブルガリア)	・2007年1月に導入開始
		BR(ブラジル)	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年6月に導入開始、2009年1月に全属性で対応 ・最新方式(NSEC3)を採用した最初のTLD
		CZ(チェコ)	・2008年9月に導入開始
		TH(タイ)	・2009年3月に導入開始、アジアで最初にDNSSEC対応したccTLD
		TM(トルクメニスタン)	・2009年10月に導入開始
		US(アメリカ)	・2009年12月に導入開始
	gTLD	MUSEUM	・2008年9月に導入開始
		GOV(米国政府)	・2009年2月に導入開始、2009年末に全組織が対応予定
ORG		・2009年6月に導入開始、2010年に本サービス化予定	

TLDにおけるDNSSEC対応状況(導入予定)

状況	種別	TLD名	特記事項
導入を表明 (非公式含む)	ccTLD	CA(カナダ)	・2009年10月にテストベッドを開始
		CH(スイス)	・2009年9月に実地検証開始、2010年2月サービスイン予定
		CN(中国)	・2010年末までに導入予定
		DE(ドイツ)	・2009年5月にテストベッドを開始
		GR(ギリシャ)	
		JP(日本)	・ 2010年 を目処に導入予定
		KR(韓国)	・2010年6月に導入し、2011年1月に全空間で対応予定
		LI(リヒテンシュタイン)	・2009年9月に実地検証開始、2010年2月サービスイン予定
		MY(マレーシア)	・2010年第四四半期に導入予定
		NL(オランダ)	・2010年8月に導入予定
		RU(ロシア)	
	UK(イギリス)	・プロトコル策定・IANAとの共同実験など積極的に活動	
	gTLD	BIZ	・2010年第一四半期に導入予定
		CAT	・2009年中に導入予定
		COM	・2011年の早い時期に導入予定
		EDU	・2010年3月末に導入予定
INFO		・2010年中に導入予定	
	NET	・2010年末までに導入予定	

ルートDNSサーバのDNSSEC対応予定

- ICANNとVeriSignを中心に導入プランを検討
 - ICANN : ルートDNS情報の内容責任者
 - VeriSign : ルートDNS情報の編集責任者
- 導入スケジュール発表(2009年10月)
- 発表されたスケジュール
 - 2009年12月1日 ルートDNS情報への署名開始
 - 2010年1月～7月 署名を付加したDNS応答を返す
ルートDNSサーバの数を段階的に増やす
(署名の検証はできないようにしておく)
 - 2010年7月1日 全てのルートDNSサーバが、署名を付
加したDNS応答を返し、署名の検証が
可能な状態にする

3. 日本国内の状況

JPRSの活動状況（技術検証）

- JPRS単独での検証（～2009年11月）
 - DNSSECの基本機能確認
 - DNSSEC導入時のDNSサーバへの影響検証
- 他組織*が運用するJP DNSサーバでの検証（2009年11月～）
 - * IJ、JPNIC、NII、WIDE
 - 海外拠点など遠隔地への転送検証、高負荷時の機能検証
- 各種プレイヤーと連携した検証（2009年12月～（予定））
 - 複数の大手ISPと、DNSサーバ(問合せ側)への影響検証等の実施
 - 機器ベンダー数社と、ネットワーク機器に対するDNSSEC対応検証の実施
 - 指定事業者と、DNSSECサービス導入への機能検証等の実施
 - 関連団体へのDNSSEC導入の啓発と技術検証への参加の働きかけ
- DNSSECジャパン(後述)を舞台にした連携（2009年11月～）
 - 一般参加型の技術検証実施に向けた協力

JPRSの活動状況（サービス開発）

- DNSSECサービス仕様検討
 - JP DNSデータの署名、および、登録者の署名情報をJP DNSに登録するサービス
 - DNSSECサービス導入による主な変更点
 - 指定事業者向け申請インターフェースの追加（登録者の署名情報登録）
 - JP DNSデータに署名を付加するための改造
 - Whois、データエスクロー等の周辺機能の改造
- 指定事業者向けサービス仕様説明
 - 2010年1月、指定事業者向けに公開予定
 - サービスの手続き説明資料
 - 申請インターフェースの仕様

JPRSの活動状況（対外活動）

- DNSSECの導入・普及を促進するための国内コミュニティの形成
 - DNSSECジャパン(後述)の設立支援と参加(11月)
- 指定事業者向け情報提供
 - JPパートナーズミーティングでの解説(12月)
- 教育・啓発活動
 - DNSOPS.JP BoF* * DNS運用者の有志会合
 「いますぐDNSSECで遊ぶには」「DNSSECの導入に向けて」(9月)
 - JAIPA 地域ISPの集い in 群馬 「これだけは知っておきたいDNSSEC」(9月)
 - インフラエンジニア勉強会 hbstudy #4 「今こそDNSSEC!」(10月)
 - Internet Week 2009でのDNSSECチュートリアル(11月)
 - DNSOPS.JP BoF
 「DNSSECの拡張とBIND 9.7の新機能、小規模なDNSSEC遊びその後」(11月)
 - 日本UNIXユーザ会 「DNSSECの動向と運用」(12月)
- 国際的な議論・情報交換
 - ICANNソウル会合にて「DNSSEC in .JP」発表(10月)
 - IETF広島会議前後における他レジストリとの情報交換(11月)

DNSSECジャパン(DNSSEC.jp)の設立

- 2009年11月24日設立
- 活動目的
 - DNSSECの導入・運用に関する課題の整理と検討を行い、参加者の技術力の向上、ノウハウの共有を促進するとともに、ツールの提供や普及のための技術解説などの対外活動も行う。
- 活動内容
 - DNSSECの導入・運用に関する課題の整理・共有
 - DNSSECの導入・運用に関する技術検証の実施、ノウハウの蓄積
 - DNSSECの導入・運用に関するガイドラインの策定
 - 成果の対外的発信によるDNSSECの普及・啓発
- 会員（2009年12月10日現在）
 - ISP、ホスティングプロバイダ、レジストリ、インターネットエクスチェンジ等、全17会員
- <http://dnssec.jp/>